

令和5年度 学校総合評価

富山県立高岡高等支援学校

6 今年度の重点目標に対する総合評価

学校の現状を踏まえ、今年度の重点課題として①卒業後の社会的・職業的自立に向けた授業（作業学習）の充実、②防犯教育の推進と充実の2項目を挙げた。

各重点課題の評価については、達成度及び具体的な取組状況から総合的に判断し、①は「A：達成した」「B：ほぼ達成した」、②は「A：達成した」とした。学校評議員からは、それぞれの重点課題について、以下の評価や提言をいただいた。

(1) 重点課題①

- ・ 教員同士の検討も必要だが、企業向け見学会等で、企業の方などの違った視点から意見をいただくことも良い。
- ・ 作業学習で行う支援が、卒業後の就労にどのように結びつくか考えながら指導する必要がある。
- ・ 授業を見学できなかった教員への対処法を考えていく必要がある。

(2) 重点課題②

- ・ 専門知識を有した関係機関との連携は、生徒、教職員ともに効果的であった。
- ・ 不審者対応訓練や防犯教室を継続的・定期的に行い、引き続き防犯意識を高めていく必要がある。

7 次年度へ向けての課題と方策

今年度の重点課題の次年度へ向けた方策等は以下のとおりである。今年度の成果を踏まえ、次年度も「卒業後の一般企業等への就職を目指す学校」としてのよりよい取組を進めていきたい。

(1) 重点課題①

- ・ 今後は、作業学習においてもICTの活用により生徒への支援は進化していくと思われる。時代に沿った授業改善と情報の共有を継続し、生徒の学習意欲や理解力を高め、深い学びにつなげていくための方策を工夫し、提案していきたい。

(2) 重点課題②

- ・ 今年度見直した危機管理マニュアル及び作成したパワーポイントの資料を使って分かりやすく説明することで、生徒、教職員一人一人が防犯について理解し、有事の時に的確に対応できるようにする必要がある。また、緊急時に防犯カメラの再生ができる教職員を一定数確保していく必要がある。

8 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

令和5年度 高岡高等支援学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習活動	
重点課題	卒業後の社会的・職業的自立に向けた授業（作業学習）の充実	
現 状	<p>本校では、作業学習を学習活動の中核とし、地域・企業と連携しながら生徒の働く力を高め、就労に必要な知識・技能・態度を身に付けられるよう取り組んでいる。各作業班では、複数の担当教員が運営の仕方や支援の方法などを共有して指導に当たっているが、担当している作業班以外の活動を見る機会が少ない。また、毎年取り組んでいる互見授業は、各授業の展開を知り、授業改善を進める良い機会となっているが、作業学習で行われることが少なかった。</p> <p>今年度は作業学習においても担当以外の班の活動を見る機会を多く設けて、お互いがアンケートにて授業改善につながる意見を出し合うことで各教科同様に指導の充実が図られると考える。</p>	
達成目標	担当以外の作業班の見学及びアンケートの記入 80%	アンケートをもとにした授業改善の検討 100%
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・感想を記すアンケートを作成する。 ○授業見学（互見授業）の実施 ・4つの作業班を1学年、2・3学年と分け、計8展開の作業学習のうち、自分の担当以外の作業班を見学（30分程度）し、アンケートの記入をする。 ○アンケートのまとめ ・学期ごとにアンケートの意見をまとめ、各班会で授業の展開や支援について検討する。 	
達 成 度	アンケートの記入 70%	授業改善の検討 100%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・担当以外の作業班の見学について、1学年の4つの班、2、3学年の4つの班と細かく分けて見学するという事は、それぞれの教員が担当する授業の時間割などの関係で全てを達成することが難しかった。学年を問わず、担当以外の作業班の見学であればほとんどの教員が行うことができた。 ・アンケートでは、良い支援、改善できる支援など様々な意見が集まり、それぞれの班で検討する機会を設けることができた。他の班の見学で得た取り組みを自分の班で生かす様子も見られた。 	
評 価	B	A
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・教員同士の検討も必要だが、企業向け見学会等で、企業の方などの違った視点から意見をいただくことも良い。 ・作業学習で行う支援が、卒業後の就労にどのように結びつくか考えながら指導する必要がある。 ・授業を見学できなかった教員への対処法を考えていく必要がある。 	
次年度へ向けての課題	<p>担当以外の作業班の見学をすることで、班の特徴や支援の工夫などそれぞれの教員が視野を広めることができたのではないと思われる。また、アンケートを活用し、整理することでどの班においても共通する支援や課題も見られ、それらを全教員に共通理解することができた。今後は、作業学習においてもICTの活用により生徒への支援は進化していくと思われる。時代に沿った授業改善と情報の共有を継続し、生徒の学習意欲や理解力を高め、深い学びにつなげていくための方策を工夫し、提案していきたい。そのためにも、互見授業やアンケートの活用を進めていく仕組みを考えていきたい。</p>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった)

重点項目	学校生活	
重点課題	防犯教育の推進と充実	
現 状	<p>本校では、火災や地震に関する防災教育として、年3回避難訓練を実施しているが、防犯に関しては、教職員で危機管理マニュアルを基に年1回研修を実施しているのみで、実際に防犯訓練は実施していない。</p> <p>学校内外において、不審者等による生徒の安全を脅かす事件が数多く発生しているが、本校では幸い、これまで被害や犯罪が起こることがなかった。毎年、年度当初に会議形式での防犯研修を行ってはいるものの、有事の際に教職員が生徒の安全を守るための的確な行動をとることができるかは不透明である。本校の生徒も、話を聞いただけでは具体的なイメージをもって行動に移すことは難しい。そのため、教職員と生徒が体験型の実践的訓練に取り組むことは有効であると考えられる。</p> <p>また、専門知識を有した関係機関と連携した取組を進めていくことで、防犯についての基礎知識の習得及び実践力の向上を目指したい。</p>	
達成目標	① 防犯教室の実施（2回以上） ②防犯意識が高まった生徒・教員の割合90%以上	
方 策	<p>○専門知識を有した関係機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が、素早く通報・対応できるためのシステムの具体化・見直し ・ICTによる視覚化したマニュアル作り ・不審者対応訓練や防犯教室の実施 <p>○アンケートによる実態把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導の事前事後にICTを活用した教職員・生徒へのアンケートを実施 	
達成度	① 100% ②90%	
具体的な取組状況	<p>○専門知識を有した関係機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県の学校安全アドバイザー派遣事業を活用し、防犯アドバイザーや警察署の助言・指導を受けた。危機管理マニュアル、不審者対応、防犯対策についてシステムを具体化・見直しができた。 ・教員研修用に、不審者対応の流れ、さすまた、防犯カメラ等の位置をより理解できるよう写真等を使いパワーポイントを作成、説明した。 ・生徒指導用に、登下校時の不審者対応、いかのおすしなどをより理解できるように、生徒会執行部がGoogle スライドを作成し、生徒集会で啓発した。 ・不審者対応訓練を実際に行うことで、有事の際の行動の仕方を理解することができた。 ・生徒指導主事による防犯教室、警察署・防犯アドバイザーによる防犯教室、防犯用具についての指導を受けたことで、不審者に遭遇した際の対応の仕方、不審者から身を守ること、防犯用具についての知識を高めることができた。 <p>○アンケートによる実態把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケートでは、生徒や教員の課題が明確になり、訓練の方法や防犯教室の内容などを、課題に合わせたものにすることができた。 ・事後アンケートでは、効果的であったことや、今後継続して取り組むべき課題が明らかになった。 	
評価	A	目標を達成したのでAとした。
学校関係者の意見	専門知識を有した関係機関との連携は、生徒、教職員ともに効果的であった。不審者対応訓練や防犯教室を継続的・定期的に行い、引き続き防犯意識を高めていく必要がある。	
次年度へ向けての課題	今年度見直した危機管理マニュアル、作成したパワーポイントの資料を使って分かりやすく説明し、一人一人が防犯について理解し、有事の時に対応できるようにする必要がある。緊急時に防犯カメラの再生ができる教職員を一定数確保していく必要がある。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成しなかった D:達成しなかった)